

一般社団法人 日本アレルギー学会
アレルギー専門医カリキュラム

2003年12月より施行 2007年03月03日改定
2006年05月29日改定 2008年05月08日改定
2006年08月10日改定 2010年04月15日改定
2006年10月06日改定 2017年06月16日改定

アレルギーに関する全基本領域に共通の知識

到達レベル

A：病態の理解と合わせて十分に深く知っている。

B：概念を理解し、意味を説明出来る。

なお制度規程第5章の教育研修は、既に認定資格を取得している基盤学会に関連する診療科の教育施設で当該科のカリキュラムに従い行う。

I. アレルギー反応	到達レベル
1. アレルギー反応のクームス分類 (I-IV 型, 血清病など)	A
2. アレルゲン	
(1) 吸入 (空中) アレルゲン	A
(2) 食物アレルゲン	A
(3) 接触アレルゲン	A
(4) 薬物アレルゲン	A
(5) 昆虫アレルゲン	A
(6) ワクチン, ゼラチン	A
(7) アニサキス	A
II. 免疫	到達レベル
1. 免疫系の構成と機能	
(1) ヘルパー T 細胞, 細胞傷害性 T 細胞, 制御性 T 細胞, サイトカイン	A
(2) B 細胞の分化と機能	A
(3) 免疫グロブリン	A
(4) 樹状細胞と抗原提示	A
(5) 自然免疫機構	A
(6) 顆粒球 (好中球, 好酸球, 好塩基球を含む) およびマスト細胞	A
(7) 補体	A
2. 免疫遺伝学	
(1) 遺伝子多型 (HLA, SNP など)	A
(2) 遺伝子環境相互作用	A
3. 移植免疫	A
4. 免疫不全	
(1) 液性	A
(2) 細胞性・分類不能型	A
5. 免疫寛容	A
6. 自己免疫疾患	A
III. アレルギー性炎症	到達レベル
1. 化学伝達物質	A
2. 炎症細胞	A
3. サイトカインとケモカイン	A
4. 神経ペプチド	A
5. 急性炎症と慢性炎症	A

IV. 環境因子	到達レベル
1. 大気汚染	A
2. 室内汚染物質	A
3. 化学物質	A
V. 膠原病とその類縁疾患	到達レベル
1. 全身性エリテマトーデス	B
2. 全身性強皮症	B
3. 皮膚筋炎, 多発性筋炎	B
4. 結節性動脈周囲炎, 壊死性血管炎	B
5. 関節リウマチ	B
6. リウマチ熱	B
7. 混合性結合組織病	B
8. Sjögren 症候群	B
9. ベーチェット病	B
10. 川崎病	B
11. 自己炎症性疾患	B
VI. 免疫不全症	到達レベル
1. 先天性 (原発性) 免疫不全症	
(1) 伴性 (X 連鎖) 無ガンマグロブリン血症	B
(2) common variable immunodeficiency (分類不能型免疫不全症)	B
(3) IgM 増加を伴う免疫グロブリン欠乏症 (高IgM 症候群)	B
(4) 選択的 IgA・IgG サブクラス欠乏症	B
(5) 胸腺低形成症 (DiGeorge 症候群)	B
(6) 毛細血管拡張性失調症	B
(7) Wiskott-Aldrich 症候群	B
(8) 複合免疫不全症	B
(9) 好中球機能不全症	B
(10) その他	B
2. 続発性免疫不全症	B
3. 後天性免疫不全症	B

基本領域別の知識と技術・技能と症例

1) 知識に関する到達レベル

- A: 病態の理解と合わせて十分に深く知っている。
 B: 概念を理解し, 意味を説明出来る。

2) 技術・技能に関するレベル

- A: 複数回の経験を経て, 安全に実施できる, または判定できる。
 B: 経験は少数例だが, 指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる, または判定できる。
 C: 経験はないが, 自己学習で内容と判断根拠を理解できる。

3) 症例に関する到達レベル

- A: 主治医 (主たる担当医) として自ら経験した (主病名である他のアレルギー疾患に深く関連した合併症として経験した場合を含む)。
 B: 間接的に経験した (症例をチームとして, または症例検討会で経験しておりコンサルテーションに対応できるレベル)。
 C: レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した。

I. 代表的疾患 (知識)	内科	小児科	耳鼻科	皮膚科	眼科
1. アナフィラキシー (診断・自己注射指導等治療)	A	A	A	A	B
2. 気管支喘息	A	A	A	B	B

3. 花粉症	A	A	A	A	A
4. 口腔アレルギー症候群	A	A	A	A	B
5. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー	A	A	B	A	B
5. アレルギー性鼻炎	A	A	A	B	B
6. アレルギー性結膜炎	A	A	B	B	A
7. じんま疹・血管性浮腫	A	A	A	A	B
8. アトピー性皮膚炎	A	A	B	A	B
9. 食物アレルギー	A	A	A	A	B
10. 薬物アレルギー	A	A	A	A	A
11. 昆虫アレルギー	A	A	A	A	A
12. ラテックスアレルギー・職業アレルギー	A	A	A	A	A
II. 検査法（技能・技術）	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. 皮膚検査					
(1) プリックテスト・皮内テスト	A	A	A	A	B
(2) パッチテスト	B	B	C	A	C
2. 総IgE値・抗原特異的IgE抗体	A	A	A	A	A
3. リンパ球刺激試験（薬剤）	B	B	C	A	C
4. 好塩基球活性化試験（ヒスタミン遊離試験など）	B	B	C	A	C
5. アレルゲン誘発試験					
(1) 食物抗原負荷試験	B	A	C	A	C
(2) 薬物負荷試験	B	C	C	A	C
(3) 鼻粘膜誘発試験	C	C	A	C	C
(4) 環境抗原曝露試験	B	C	C	C	C
(5) 運動誘発負荷試験	B	A	C	A	C
6. 呼吸機能検査					
1) ピークフローメーター	A	A	C	C	C
2) スパイロメトリー（肺気量分画，フローボリューム曲線）	A	A	C	C	C
7. 気道過敏性・可逆性試験	A	A	C	C	C
8. 呼気一酸化窒素測定	A	A	C	C	C
9. 光線過敏症試験	C	C	C	A	C
III. 予防と治療（技能・技術）	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. 原因（アレルゲンなど）の回避・除去	A	A	A	A	A
2. アレルゲン免疫療法（適応疾患，適応アレルゲン）					
(1) 皮下免疫療法	B	A	A	B	B
(2) 舌下免疫療法	A	A	A	B	B
(3) 食物免疫療法	C	A	C	C	C
(4) 薬物免疫療法	B	C	C	B	C
3. 薬物療法					
1) 副腎皮質ステロイド					
①全身ステロイド	A	A	A	A	A
②局所投与ステロイド	A	A	A	A	A
2) 免疫抑制薬	B	C	B	A	B
3) ロイコトリエン受容体拮抗薬	A	A	A	B	B
4) 抗ヒスタミン薬（ヒスタミンH1拮抗薬）	A	A	A	A	A

5) その他の抗アレルギー薬 (メディエータ遊離抑制・TXA2阻害・Th2阻害薬など)	A	B	A	B	A
6) β 刺激薬	A	A	B	B	B
7) アドレナリン	A	A	B	C	C
8) キサンチン薬	A	B	C	C	C
9) 和漢薬	C	C	B	B	B
10) 抗IgE抗体・抗サイトカイン抗体など	A	A	C	B	B
11) γ グロブリン製剤	C	B	C	A	C
4. 吸入療法 (各種デバイス・ネブライザー・吸入指導など)	A	A	A	C	C
IV. 内科系	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. 誘発喀痰またはBALによる気道炎症評価 (知識)	A	C	B	C	C
2. 環境真菌に対する抗体検査 (知識)	A	B	B	C	C
3. 各種喘息 (症例)					
(1) 難治性喘息	A	A	C	C	C
(2) 思春期喘息	B	A	C	C	C
(3) 高齢者喘息	A	C	C	C	C
(4) 職業性喘息	A	B	C	C	C
(5) アスリート喘息	A	B	C	C	C
(6) 妊娠中の喘息患者	A	C	C	C	C
(7) アスピリン喘息	A	C	B	B	C
(8) 運動誘発喘息	B	A	C	C	C
(9) 喘息重積状態	A	A	C	C	C
(10) 咳喘息・慢性咳嗽	A	A	B	C	C
4. 各種アレルギー性呼吸器疾患 (症例)					
(1) アレルギー性気管支肺真菌症	A	C	C	C	C
(2) 過敏性肺炎	A	C	C	C	C
(3) 急性・慢性好酸球性肺炎	A	C	C	C	C
5. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) (症例)	C	C	C	B	C
6. 高IgE症候群 (症例)	C	C	C	B	C
7. NSAIDs不耐症 (症例)	B	C	C	B	C
V. 小児科系	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. アレルギーマーチの考え方 (知識)	A	A	A	A	B
2. 学校・保育園等集団生活での指導 (知識)	B	A	B	B	C
3. 新生児乳児消化管アレルギー (症例)	C	A	C	C	C
4. 小児アトピー性皮膚炎 (症例)	B	A	C	A	C
5. 小児気管支喘息 (症例)	C	A	C	C	C
6. 思春期喘息 (症例)	C	A	C	C	C
7. 小児食物アレルギー (症例)	C	A	C	B	C
8. 小児の咳喘息・慢性咳嗽 (症例)	C	A	C	C	C
VI. 耳鼻咽喉科系	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. 鼻過敏症の鑑別診断 (症例)					
(1) 血管運動性鼻炎	C	C	A	C	C
(2) 好酸球増多性鼻炎	C	C	A	C	C
(3) 薬剤性鼻炎	C	C	B	C	C
2. 慢性副鼻腔炎の診断と治療 (症例)					

(1) 慢性副鼻腔炎〔副鼻腔気管支症候群を含む〕	C	B	A	C	C
(2) 好酸球性副鼻腔炎	C	C	A	C	C
(3) アスピリン喘息に伴う副鼻腔炎	C	C	A	C	C
(4) アレルギー性真菌性副鼻腔炎	C	C	B	C	C
3. 耳鼻科領域の自己免疫疾患の診断（症例）					
(1) 多発血管炎性肉芽腫症（GPA）/Wegener 肉芽腫症	C	C	B	B	C
(2) 再発性多発軟骨炎	C	C	B	B	C
4. アレルギー性鼻炎・花粉症の診断と治療（技能・技術）					
(1) 鼻腔所見の評価	B	B	A	C	C
(2) 鼻汁好酸球検査	B	B	A	B	C
5. 喉頭アレルギーの診断と治療（技能・技術）	C	C	A	C	C
VII. 皮膚科系	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. 血管炎、SLE など膠原病の早期鑑別（知識）	B	C	C	A	C
2. 皮膚アレルギー疾患（症例）					
(1) 接触皮膚炎	C	B	C	A	B
(2) 難治性アトピー性皮膚炎	C	A	C	A	B
(3) 難治性蕁麻疹	C	C	C	A	C
(4) 痒疹	C	B	C	A	C
(5) 重症薬疹	C	C	C	A	C
3. 天疱瘡など自己免疫性皮膚疾患（症例）	C	C	C	A	C
4. 金属アレルギー（症例）	C	C	C	A	C
VIII. 眼科系	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	眼科
1. アレルギー性結膜疾患の病型分類他の角結膜疾患の鑑別（知識）	B	C	B	B	A
2. フリクテン性角結膜炎他の角結膜疾患との鑑別（知識）	B	C	B	B	A
3. 春季カタル（症例）	C	B	C	C	A
4. アトピー性眼瞼炎（症例）	C	B	C	B	A
5. アトピー性白内障・網膜剥離（症例）	C	C	C	C	A